

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	相楽児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	令和6年10月1日 ~ 令和7年9月30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41 (回答者数)	32
○従業者評価実施期間	令和6年10月1日 ~ 令和7年9月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年9月30日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児1名につき指導員1名を配置し担当制による療育提供を行うことできめ細やかな支援の提供が可能。	支援提供後に詳細を記録し、カンファレンスを行い支援の振り返りを行っている。また研修の実施、外部講師によるスーパーバイズ等の指導により、日々の療育向上に向けた取り組みを行っている。	現行の取り組みを継続し、個々の利用児の特性に合わせた支援の提供に努めていきます。
2	親子通園方式による家族支援の実施。	親子通園方式をとっているため、その日の療育の結果や成果をフィードバックすることができる。また保護者同士の交流の機会の提供やポーターを取り入れた家族支援を実施している。	現行の取り組みを継続し、保護者の方にも分かりやすい事業の実施に努めていきます。
3	市が実施主体の事業所の特性を活かし、相楽圏域の母子保健担当等との連携支援が可能。	入園児から各市町村の保健師や心理士と連携しながら支援方法を検討している。	必要に応じ情報共有を行いながら、支援体制の強化に努めていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等との他の子どもと活動する機会の場の提供。	本事業所への利用児は併行通園児となることから、所属園で他の子どもとの活動が可能。その他に地域の保育所等が事業所と連携した取組みに対するニーズがあるか等、把握する必要がある。	地域の保育所等における事業所との交流等へのニーズの把握を行います。
2	地域に開かれた事業運営。	児童発達支援センターとして地域への貢献方法について検討が必要。	他のセンターの取り組み等を参考にしながら、具体の事業等の検討と実施の可否について検討していきます。
3			